

桑原浩二の国語科（第1学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

私は、**経験したことについて事柄を取捨選択し、自分の考えを明確に書き表す子ども**を目指す。具体的には、「書こうとする言葉の意味、働き、使い方に着目する」「相手や目的、意図と関係付けて考えること」という見方・考え方を基に、「構成表」を用いてツール活用能力を發揮し、時間的な順序に沿ってつながりのある文章を書き表す姿である。

国語ワーキンググループでは、「思考力・判断力・表現力等」において「言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力」が重視されている。入門期の子どもにとって経験したことを文章に書くことは、「様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にするとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度（自分の感情をコントロールする態度）」の育成に直結する。

もちろん、従来の「書くこと」の指導においても、書こうとする題材に必要な事柄を収集させ、簡単な構成を考えさせた上で文章を書かせてきた。しかし、「書くことがなかなか思い浮かばない」といった書くために必要な事柄を集められない子どもや、事実を羅列しただけの文章に終始してしまう子どもが見られた。そのような子どもは、書くために必要な事柄を取捨選択できていないのである。これまでの授業では、文章化過程において取材をさせた後に、自分の文章に必要な事柄を絞り込ませず系列化させていた。これでは、子どもが自分の考えを伝えるために必要な事柄を見いだすことはできない。

そこで、目指す子どもの姿を具現するために、次のように改善を図る。

まず、書くために必要な事柄を豊富に収集させる。取材の過程では、思考ツールを活用させ、経験したことを想起させることで、質的にも量的にも内容を充実させる。

次に、収集した事柄を「最も伝えたいこと」という視点で選択させる。子どもは、判断した理由を考えることを通じて、「したこと」と「感じたこと」とを比較・関係付け、自分の文章に必要な事柄を絞り込む。このようにして子どもは、収集した事柄の中から自分の文章に必要な事柄を見いだす。そして、推敲の過程を経て文章化することで、自分の考えを明確に書き表すようになる。

2 本研究で育成する資質・能力

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く技能	○必要な事柄を収集する力 ○必要な事柄を多面的・多角的に精査し構造化する力 ○考えたことや伝えたいことを言葉にする力	○経験したことや想像したこと、自分の思いを進んで書こうとする態度

3 主張する働き掛け

子どもは、家庭学習で継続的に日記を書いており、「したこと」と「そのときの気持ち」で構成される4～8文程度の文章を書くことができる。また、「始めに」「次に」「最後に」などの順序を表す言葉を用いて書くことはできるが、そのときの気持ちや様子まで詳しく書くことはできない。

そのような子どもに対して、まず、国語科で發揮させたい資質・能力との関連を考え、「書くこと」の学習に入る前に生活科をはじめとする他教科等の学習を先行させる。その学習の中で、国語科で發揮させたい資質・能力と関連のある資質・能力を發揮させておく。

次に、子どもが興味・関心をもって書くことができる題材を提示する。題材の要件は、「共通の体験であること」「事柄の順序が明確であること」の2点である。

そして、活動後の感想を問い、班で交流させる。子どもは、活動に対して「したこと」や「感じたこと」を想起する。その後、想起したことを付箋紙に書き出させる。できるだけ多く付箋紙に書き出させることで、書くために必要な事柄を豊富に収集させる。子どもは、**書こうとする言葉の意味、働き、使い方に着目する**という見方・考え方を基に、必要な事柄を収集する力（**②思考力・判断力・表現力**）を發揮する。

また、このときの子どもは、ペアや班で話し合いながら活動に励んだり（**④協働性**）、書くために必要な事柄を収集するために思考ツールを使おうと考えたり（**⑤ツール活用能力**）する。このように、書くために必要な事柄を収集した子ども（C0）に、次のように働き掛ける。

働き掛け1

伝える相手を選択させ、判断した理由を問う。

問いをもたせるための働き掛けである。

題材に対して、「したこと」を複数の付箋紙に書き出した子どもに、誰に伝えたいかを選択させ、判断した理由を問う。子どもは、「おうちの人に書いて伝えたいな。楽しかったことを書いて伝えたい」など、伝えたい相手とその理由を表出し、書いて伝えたい気持ちを高める。同時に、子どもは、「収集した事柄をどのように使って書けばよいのか」と必要な事柄を多面的・多角的に精査し

構造化する力（②思考力・判断力・表現力）を發揮して考える。

このように、文章を書きたい意欲を高めたり、「どのように書けばよいのか」などと疑問をもったりした姿を問いをもった姿とする。ただし、この時点では「文章を書きたい」と考えてはいるが、「収集した事柄をどのように文章化させるか」という見通しまではもっていない。

働き掛け2

文章化するための方法を問う。

見通しをもたせ、書くために必要な事柄を順序よくとらえさせるための働き掛けである。

問いをもった子どもに、「収集した事柄をどのようにすれば文章が書けそうか」と文章化するための方法を問う。すると子どもは、文章を構成するための思考ツールである「構成表」が活用できると考え、「したこと」を時間的な順序に沿って並べていけば文章が書けそうだと見通しをもつ。

なお、「構成表」とは、「始めー中ー終わり」の三部構成を考えさせるためのものである。「構成表」の中の部分は、「はじめに、」「つぎに、」「さいごに、」の3つに分かれており、付箋紙を貼ったり、移動したりするなどの操作がしやすくしてある。

子どもは、「構成表」を使って、時間的な順序に着目しながら、収集した事柄を順序よく並び替え、系列化する（①知識・技能）。書くために必要な事柄を系列化し、見通しをもった子どもに次のように働き掛ける。

働き掛け3

伝えたい事柄を選択させ、判断した理由を問う。

自分の文章に必要な事柄を比較・関係付けさせるための働き掛けである。

「構成表」に事柄を収集した子どもに必要な付箋紙を選択させ、判断した理由を問う。子どもは、「構成表」に貼り付けた付箋紙の中から最も伝えたい事柄の付箋紙を選択し、選択した理由を付箋紙に書く。このようにして、子どもは文章を書く上で最も伝えたい事柄を選び、必要な事柄のみを「構成表」に残す。また、このとき、ペアや班で話し合いながら活動に励んだり（④協働性）、必要な事柄を比較・関係付けるために「構成表」を使おうと考えたり（⑤ツール活用能力）する。

その後、子どもは「構成表」を見ながら、意欲的に文章を書く（③態度）。このようにして、**経験したことについて事柄を取捨選択し、自分の考えを明確に書き表す子ども（Cn）**になる。

記述後には、「よく分からないところはないか」「もっと詳しく聞いてみたいところはないか」などを視点として、班で互いの文章を読み合わせる。直した方がよいところを助言し合うこと（④協働性）で推敲させる。

働き掛け4

自分の考えを明確に書き表すことができた理由を問い、振り返りを記述させる。

子どもに達成感を味わわせ、様々な資質・能力を發揮したことで課題を解決できたことを自覚させるための働き掛けである。

最終的な文章が完成した後、班で互いの文章を交流する場を設定する。そして、文章のよいところを見つけた子どもに対して自分の考えを明確に書き表すことができた理由を問い、振り返りを記述させる。こうすることで、子どもは、「順序に沿ってしたことを考えることで、楽しかったことが伝わる文章が書けました（①知識・技能）。『構成表』を使って（⑤ツール活用能力）、書くことの手柄を並び替えたり、選んだりして文章を書いたことがよかったです（②思考力・判断力・表現力）」などと記述し、様々な資質・能力を發揮したことにより課題解決ができたことを自覚する。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した見方・考え方を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を發揮することができたか。
- ④ 子どもは發揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、「したこと」や「感じたこと」を時間的な順序に沿って文章を書き表すことができたかどうかを、子どもの文章から判断する。
- ② 働き掛け2, 3を受けて、「書こうとする言葉の意味、働き、使い方に着目する、相手や目的、意図と関係付けて考える」という見方・考え方を働かせたかどうかを、実際の子どもの姿や撮影した映像及び「構成表」から判断する。
- ③ すべての働き掛けにおいて、「思考ツールを使う」など、想定した資質・能力を發揮したかどうかを、実際の子どもの発言や文章、「構成表」、撮影した映像から判断する。
- ④ 働き掛け4を受けて、發揮した資質・能力を自覚したかどうかを、発言や文章、「構成表」の記述から判断する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業 (6月) 「こんなことしたよ 一角田山登山ー」(国語6時間)
- (2) 中間検討会 (9月) 「思い出して書こう ーばらいろおかしやさんー」(国語6時間)
- (3) 初等教育研究会 (2月) 「1年間の思い出を届けよう ー成長マイブッカーー」(国語6時間)